日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町２番８号（動力車会館）
電話｛（鉄電） 千葉 2935・2936番
（公） 043（222）7207番

93.9.2 No. 3851

ー動労大改革の本格的実現に着手し、政治反動との妥協なき対決の姿勢を鮮明にし、闘いの旗への糾合を呼びかけるー

第20回定期大会に集う

動労千葉第二〇回定期大会が九月二五日～二六日、千葉県いこいの里「笠森保養センター」において開催される。

今定期大会は、昨年大会以降の一年間の闘いで培ってきた成果と教訓を、さらなる闘いへと昇華させ、「ＪＲ体制」を根底から覆す、**動労大改革の本格的実現に着手することを宣言する大会である。**また同時に、今大会は、**政治反動との妥協なき対決の姿勢を鮮明に焼き付ける大会である。**細川ー小沢政権による小選挙区比例代表並立制を始めとした「政治改革」攻撃は、改憲への方途を一挙に拓くものに他ならない。革新勢力の一掃ー反戦闘争の掃討へと結びつく攻撃の本質、細川政権の真の姿を鋭く見抜き、提起し、日本労働運動総体のパワーシフトを確定する闘いの筋道、その力量と質量の装備に向け、**真の反戦闘争を継承する立場から、闘いの旗への糾合を全労働者へと呼びかけるものなのだ。**

東日本・貨物での「ＪＲ体制」崩壊・破局を導きだす闘いの理念！

昨年一年間の闘いが導きだした特色は、「ＪＲ体制」が音を立てて崩壊するなか、牙城となった東日本において、その体制死守を図るがゆえに、より際立った形で矛盾と軋みが説明不可能なものとして現実化し、内部に沈殿したことである。ゆえに、東日本での崩壊の序曲はすでに鳴り響いている。この鳴動を奏してきたものこそ、脈々と「分割・民営化」体制打倒の闘いを堅持し、整合性なき施策の矛盾と、組合差別の実態を、完膚なきまでに看破してきた動労千葉の方針と闘いの勝利なのだと確信できる。

「分割・民営化」の矛盾を喝破した今春闘争ー碑となる指標！

またこの「分割・民営化」の矛盾が最も表面化した、貨物における闘いの展開と展望が、あまりにも正鵠を突いたがゆえに与えた打撃は、図り知れないものがある。**労働者の闘いが「分割・民営化」そのものの失敗を完全に喝破した今春闘争**こそ、記憶に刻まれるべき闘いであり、次期貨物「白紙ダイ改」を根底から覆す碑となる指標なのだ。

「時短」「動乗勤改悪」粉砕を闘いの核に！組織の最大課題＝強制配転者の原職復帰、格差拡大阻止に満身の力を

東日本における「一二・一ダイ改」闘争と、貨物「九四・Ｘダイ改」闘争は、今大会を期してその闘いの組織化を提示する。**労働強化を促進する「時短」「動乗勤改悪」粉砕を中心とした闘いを核に、組織の最大課題である強制配転者の原職復帰、貨物大合理化攻撃ー格差拡大阻止の闘いへ満身の力を込めて決起しようではないかー**

そのための意思結集と闘う方針の確立へ、さらにはこの闘いが「分割・民営化」体制に最後的痛撃を与え、東日本・貨物における「ＪＲ体制」の崩壊を共鳴させ、動労大改革＝動労総連合への橋脚を司るものであることを自身に投影させようではないかー

第二〇回定期大会に総結集しよう！

今秋季闘争への決起を決定！

「反戦共同行動委員会」第二回活動者会議成功勝ちとる

八月二九日、都内で開催された、反戦共同行動委員会の第二回「全活」は、全国から結集した各団体の代表による活発な討論を通して、今秋季闘争の方針が決定されました。

討論の焦点は、細川連立政権の内政、外交、全般にわたる具体的批判の重要性を確認したうえで、時間的制約がありながらも、内容的に斬りこんだ〝全活〟となったと言えます。

細川ー小沢連立政権と切り結ぶ、内容の豊富化と闘いづくりに全力を注ぐことが決定されました。

そのうえで、秋季闘争を以下の通り決定しました。（骨子）

①、一〇・二一全国統一闘争を闘う！（首都圏は東京結集で闘う）

②、一一月二一日（日）、国会情勢を睨みながら、全国闘争を闘う！

③、「学習会」「街頭宣伝」等を展開する。署名活動をそのための「闘いの武器」として展開する。

その他、連帯する闘いについて、反戦・政治反動との闘いを前進させるものとして取り組む。

以上の決定のもと、全力決起することを決意し、全国に散りました。